



SRC 自主調査の調査結果について

【第6回】新型コロナウイルス感染症に関する調査 在宅療養者・待機者調査

陽性者の拡大で在宅療養・待機者が爆発的な拡大！療養者・待機者のニーズは！

- 株式会社サーベイリサーチセンターは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年3月以降、様々なテーマで自主調査研究を行ってきました。
- 2022年1月以降のオミクロン株の感染再拡大で「在宅療養者・待機者」の増加が課題となっている局面で、2月9日～2月11日にかけて調査を実施し、まとめました。
- この調査は、全国15歳以上のインターネットリサーチモニターから新型コロナウイルス陽性者でかつ在宅療養者347人と濃厚接触者で自宅待機者798人の回答を得たものです。
回答者個人は1000人ですが、陽性者で在宅療養と濃厚接触の両方を経験し回答している人が複数おり、これらの人には両方の設問に回答いただいています。

調査の概要

● 調査地域	全国
● 調査方法	インターネット調査(インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査)
● 調査対象	15歳以上男女モニター
● 有効回答	①性年代別(15歳以上から70歳代) 性別のみ割付回収(全1000サンプル回収) ※上記の設定で回収し、性年代別の拡大集計等は実施していない。
● 調査内容	基本属性／ワクチン接種時期/陽性・濃厚接触になった時期/判明・感染要因/症状/在宅療養・待機時の不安事項/療養・待機生活上の課題/療養・待機することによる影響/療養・待機時におれば良いと思った事項/療養・待機時の今後の支援ニーズ/療養・待機時に参考になった情報と媒体/陽性となった原因/今後の重点感染対策 等
● 調査期間	2022年(令和4年)2月9日(水)配信開始～2月10日(木)調査終了
● 資料の見方	nと表記がある数値は、構成比(%)算出の基数(調査数)である 構成比(%)は、小数点第二位を四捨五入しており、合計が100.0にならない場合がある M.A.と表記がある設問は、多肢式(複数回答可)のため、合計は100%以上となる

本件に関するお問い合わせ先

株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>
※自主調査結果 <https://www.surece.co.jp/research/>

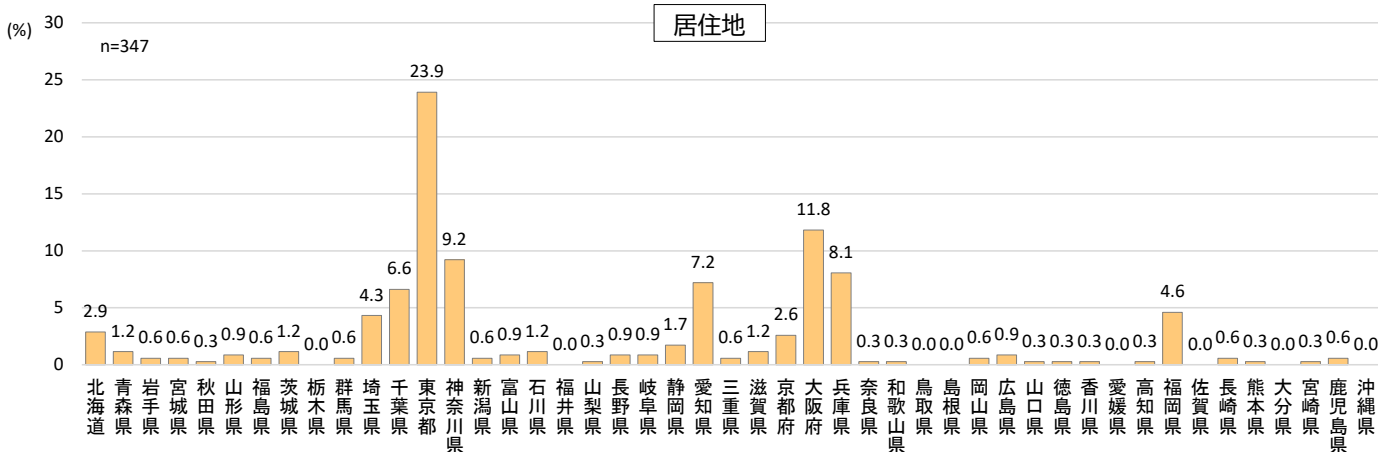
- 広報担当: 松下 正人 E-mail : src_support@surece.co.jp
品質部 TEL : 03-3802-6779 FAX : 03-3802-6729
- 調査担当: 石川 俊之 E-mail : ishi.t@surece.co.jp
岩崎 雅宏 E-mail : iwa.m@surece.co.jp
営業企画本部 TEL : 03-3802-6727 FAX : 03-3802-7321
- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として
「株式会社サーベイリサーチセンター(東京都)」を必ず明記して利用してください
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです

新型コロナウイルス感染症 陽性者の自宅療養者(回答者)属性

居住地

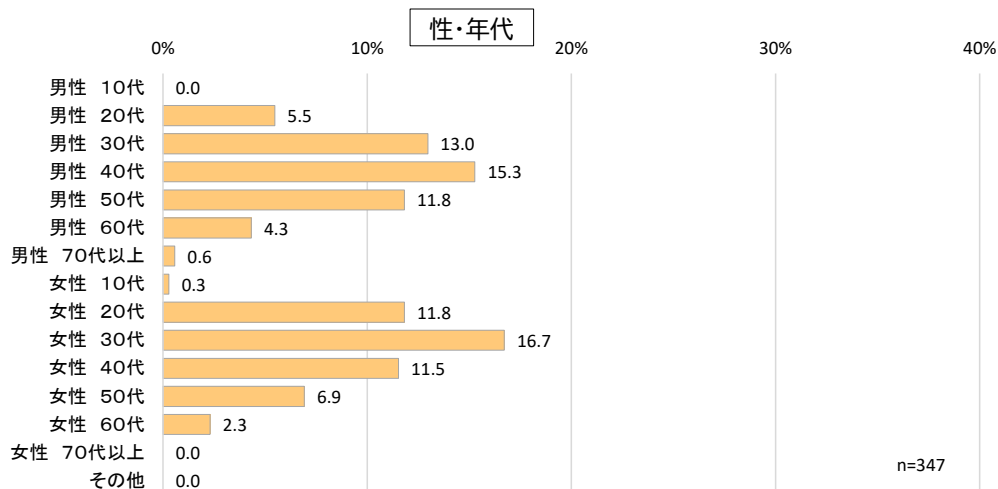
陽性者で自宅療養であると回答した347人の属性は下記のとおり。今回は、WEBサイトのモニターで抽出しているため、あくまでも回答者の回答を尊重し報告いたします。

- 回答者の居住地は、東京都23.9%と最も多く、次いで、大阪府11.8%、神奈川県9.2%、兵庫県8.1%、愛知県7.2%で、概ね、令和4年2月13日現在の都道府県別陽性者比率と同程度である。



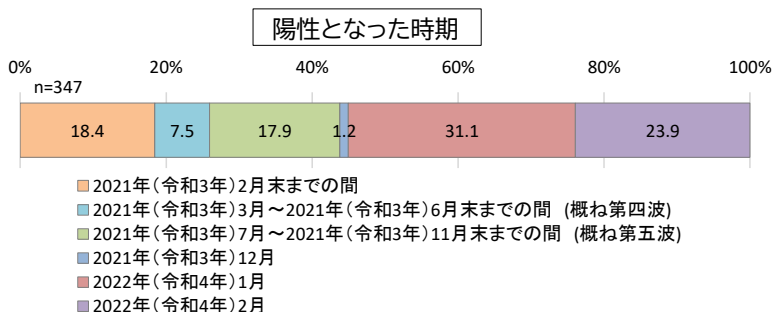
性別・年代別

- 男性では40代が15.3%と最も多く、次いで、30代が13.0%。
- 女性では30代が16.7%と最も多く、次いで、20代が11.8%。



陽性となった時期

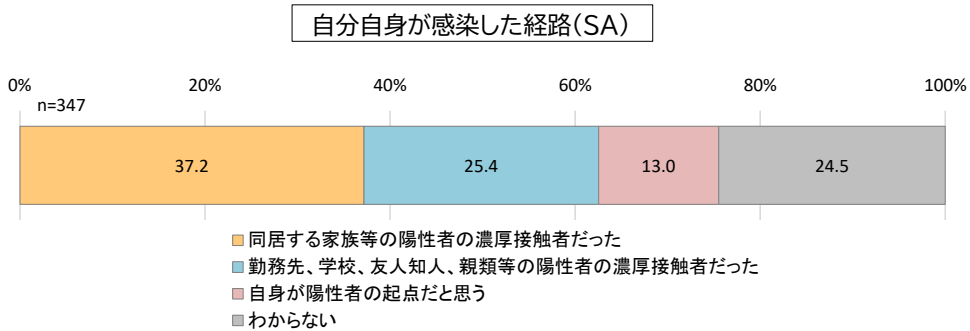
- 令和4年1月が31.1%と最も多く、次いで、令和4年2月が23.9%となり、今回の回答者は直近の2か月での陽性者が55.0%と半数を占めた。



新型コロナウイルス感染症 陽性者の自宅療養者

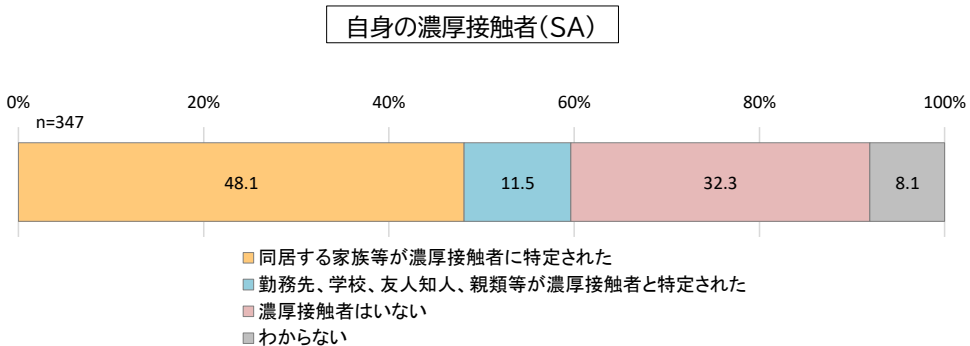
自身で考える感染経路

- 感染経路としては「同居する家族等の陽性者の濃厚接触者だった」が37.2%と最も多く、次いで「勤務先、学校、友人知人、親類等の陽性者の濃厚接触者だった」が25.4%とこれらを合わせると、概ね5人に3人が濃厚接触からの陽性の特定ということになる。一方で、「わからない」が24.5%あり、経路が不明であることになる。



自身の濃厚接触者

- 自身の濃厚接触者は「同居する家族等が濃厚接触者に特定された」が48.1%と最も多く、「勤務先、学校、友人知人、親類等が濃厚接触者と特定された」が11.5%となっている。一方で、「濃厚接触者はいない」は32.3%であり、3人に2人は濃厚接触者が存在することになる。



※濃厚接触者の特定は主な方を回答

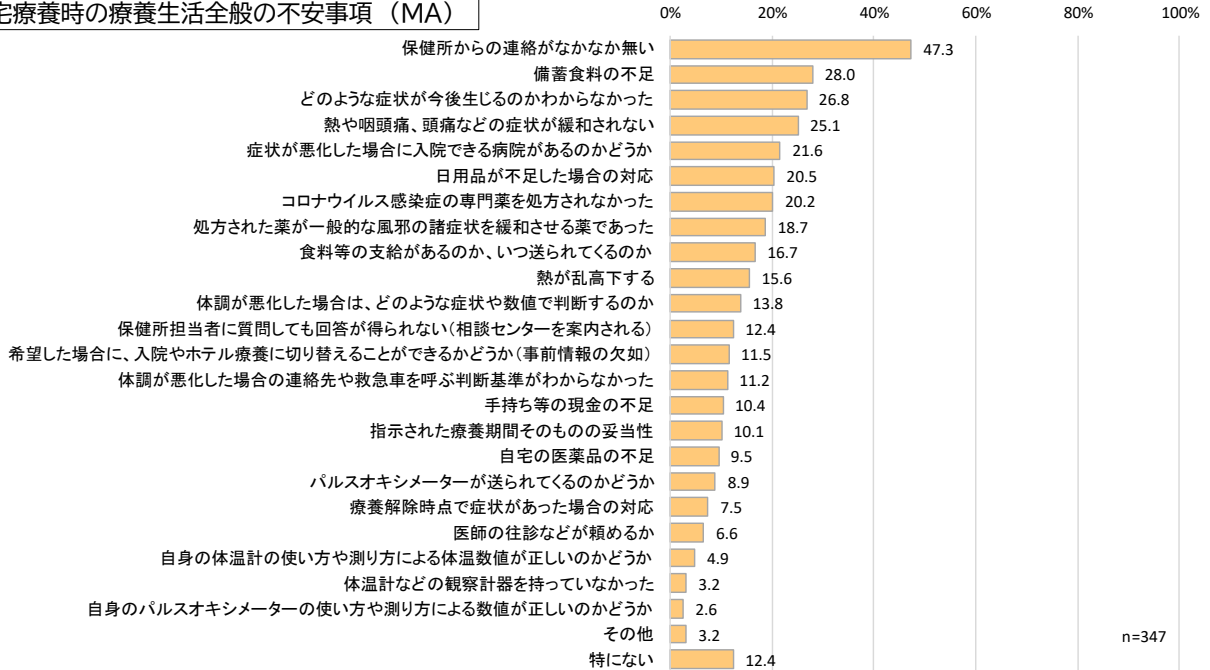


陽性者の自宅療養者

自宅療養時の不安について(療養生活全般)

- 不安事項のトップは「保健所からの連絡がなかなか無い」が47.3%、次いで、「備蓄食料の不足」が28.0%、「どのような症状が今後生じるのかわからなかった」が26.8%となっている。
- 症状の推移への不安はこれ以外にも「熱や咽頭痛、頭痛などの症状が緩和されない」25.1%や「熱が乱高下する」15.6%といった回答もあり、治っていくまでに起こりうる事象に対する不安がある。同様に「症状が悪化した場合に入院できる病院があるのかどうか」21.6%と事態の変化への不安も多い。また、外出等を抑制されるため、備蓄食料の不足に続いて、「日用品が不足した場合の対応」も20.5%となり食料・日用品の不足に対する不安も大きい。

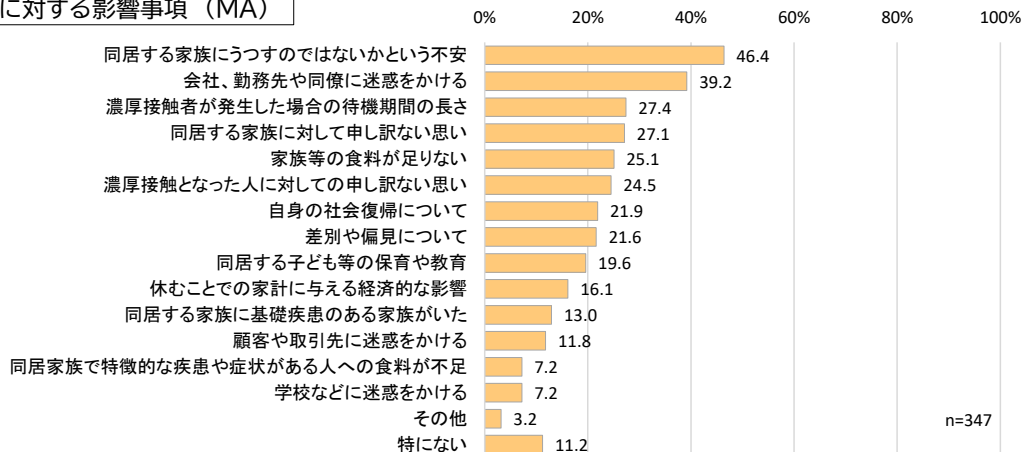
自宅療養時の療養生活全般の不安事項 (MA)



自宅療養時の不安について(療養することに対する影響)

- 陽性になったことによる影響については、「同居する家族にうつすのではないかと不安」が46.4%と最も多く、次いで「会社、勤務先や同僚に迷惑をかける」が39.2%、「同居する家族に対して申し訳ない思い」が27.1%、となり、自宅療養であるため、同居家族への影響がかなり多い。また、「家族等の食料が足りない」との回答が25.1%あり、陽性者だけの物資の供給だけではなく配慮も必要になる。一方で「濃厚接触者が発生した場合の待機期間の長さ」が27.4%、「濃厚接触となった人に対しての申し訳ない思い」が24.5%あり、濃厚接触者への影響に対する不安も大きいことがうかがえる。

自宅療養時の療養に対する影響事項 (MA)

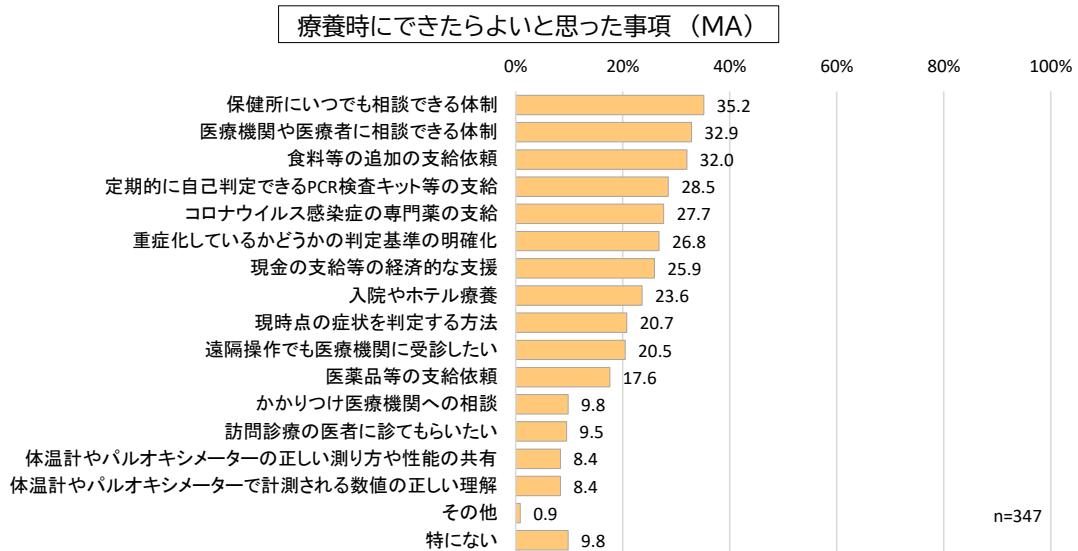




陽性者の自宅療養者

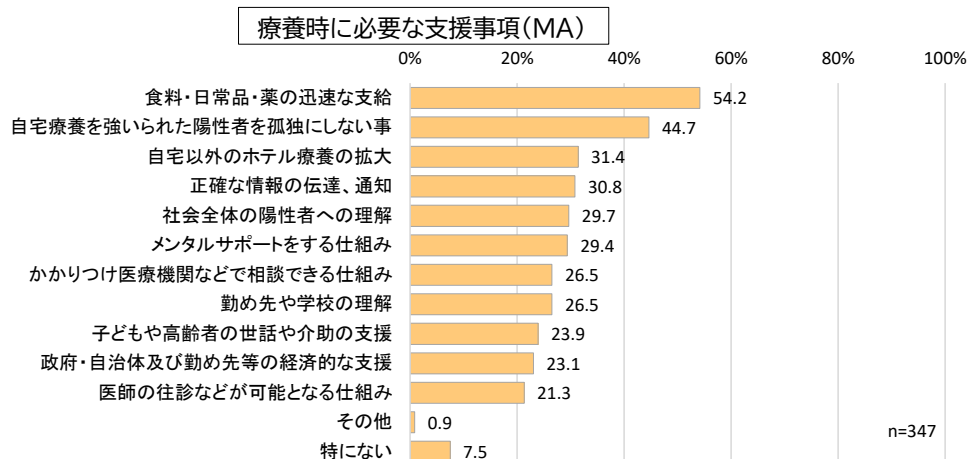
自宅療養時にできたらよいと思った事項について

- 「保健所にいつでも相談できる体制」が35.2%と最も多く、次いで「医療機関や医療者に相談できる体制」が32.9%となり、いずれも相談に対する要望が多い。
これに次ぐのが「食料等の追加の支給依頼」が32.0%、「定期的に自己判定できるPCR検査キット等の支給」28.5%、「コロナウイルス感染症の専門薬の支給」27.7%であり、働いている人は実質的に休業になっているため、「現金の支給等の経済的な支援」が25.9%となり、支給品への新たな要望も多い。また、一方で、不安事項でも回答が多かった症状の変化については、「重症化しているかどうかの判定基準の明確化」が26.8%、「現時点の症状を判定する方法」が20.7%と自身の状態を判断できるような症状の基準への要望も多い。



自宅療養時の必要な支援事項

- 今後の必要な支援は「食料・日用品・薬の迅速な支給」が54.2%と最も多く、次いで、「自宅療養を強いられた陽性者を孤独にしない事」が44.7%と、これに類似するニーズとして「メンタルサポートをする仕組み」が29.4%や、「かかりつけ医療機関などで相談できる仕組み」が26.5%となり、精神的なケアやよりどころが望まれている。続いては、「自宅以外のホテル療養の拡大」がそれぞれ31.4%、「正確な情報の伝達、通知」30.8%となる。
また、自身のこと以外では、「社会全体の陽性者への理解」が29.7%、「勤め先や学校の理解」が26.5%となり、個々の属する集団などでの理解の促進が望まれている。
特徴的なのは、陽性者の年代が男性40代女性30代が多くなっていることから「子どもや高齢者の世話や介助の支援」との回答も23.9%あり、陽性者が自宅にいることでの家族への支援策が望まれている。

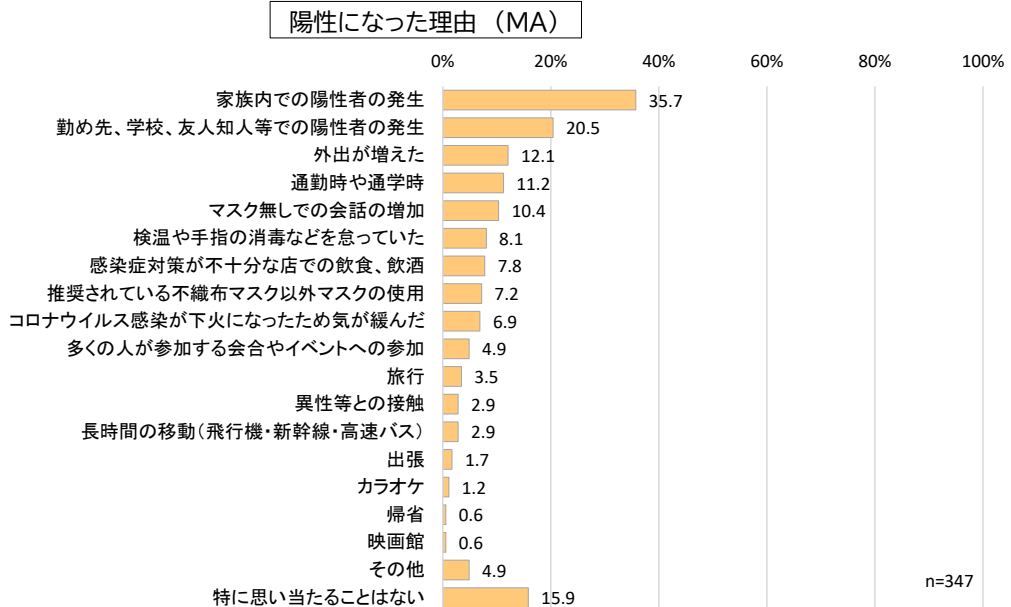




陽性者の自宅療養者

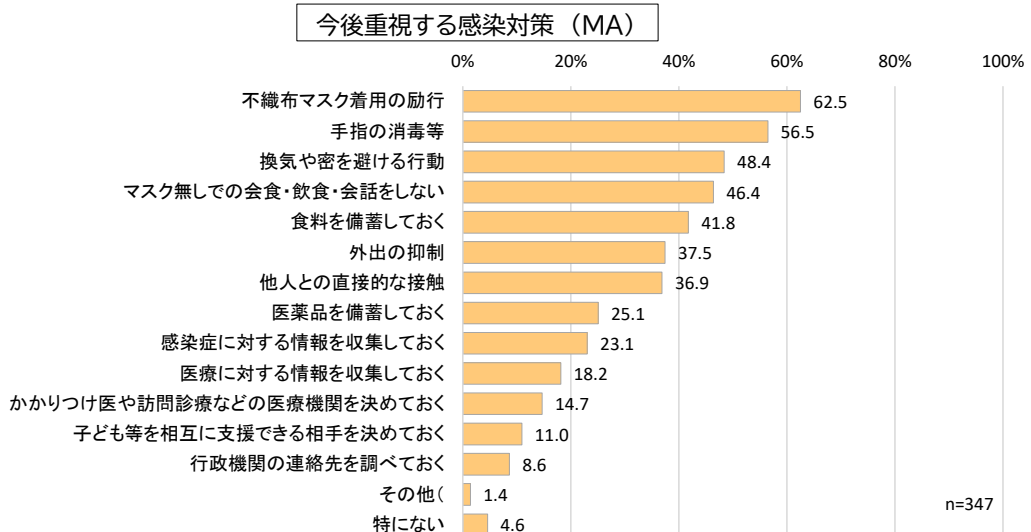
自身が陽性になった考えられる理由

- 自分自身の感染については「家族内での陽性者の発生」が35.7%と最も多く、次いで「勤め先、学校、友人知人等での陽性者の発生」が20.5%となり、濃厚接触からの感染が想定されている。一方で自身の行動態様としては「外出が増えた」が12.1%、「マスク無しでの会話の増加」が10.4%、「検温や手指の消毒などを怠っていた」が8.1%、「感染症対策が不十分な店での飲食、飲酒」が7.8%となっている。



今後重視する感染対策

- 今後の自分自身の感染防止対策については「不織布マスク着用の励行」が62.5%と最も多く、次いで、「手指の消毒等」が56.5%、「換気や密を避ける行動」48.4%、「マスク無しでの会食・飲食・会話をしない」が46.4%とこれまで言われている基本的な行動が上位を占める。また、自宅療養の不安でも備蓄食料等の回答が多かったが、「食料を備蓄しておく」が41.8%、「医薬品を備蓄しておく」が25.1%となり、外出を抑制された経験がないとなかなか感じない備蓄への回答も多く、さながら危機管理対策に近い考えである。

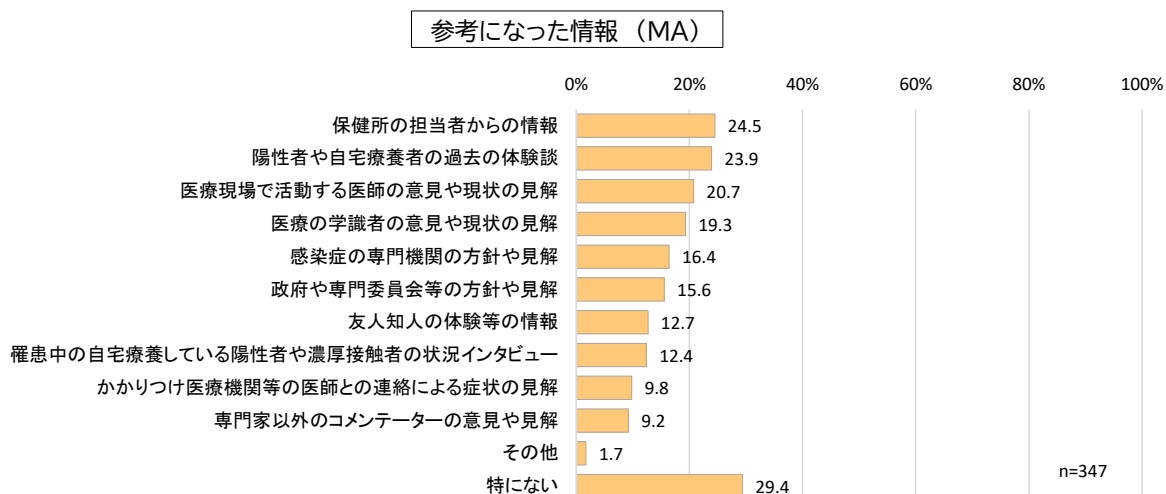




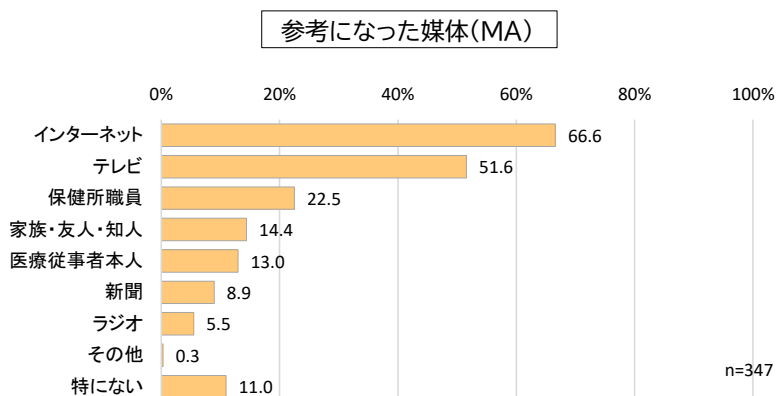
陽性者の自宅療養者

療養期間中参考になった情報と情報の入手媒体

- 自分自身の療養期間中に参考になった情報は「特にない」が29.4%と最も多いが、具体的な情報としては、「保健所の担当者からの情報」24.5%、「陽性者や自宅療養者の過去の体験談」が23.9%となっている。さらに、「医療現場で活動する医師の意見や現状の見解」が20.7%、「医療の学識者の意見や現状の見解」19.3%となり、感染・医療従事者の情報はかなり重視し参考にされている。



- 自分自身の情報の入手媒体は、「インターネット」が66.6%も最も多く、次いで「テレビ」が51.6%、「保健所職員」が22.5%となっている。

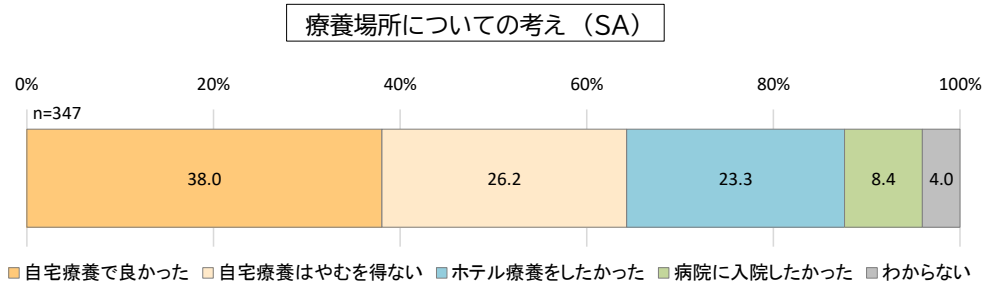




陽性者の自宅療養者

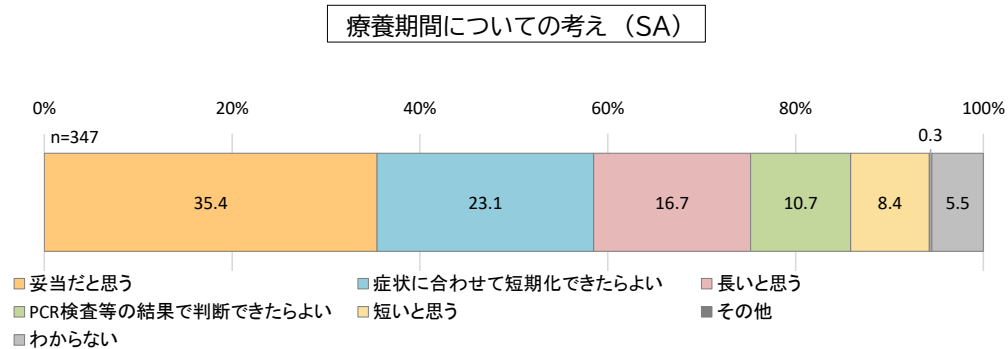
療養場所についての考え

- 自分自身の自宅療養については「自宅療養で良かった」が38.0%、「自宅療養はやむを得ない」が26.2%と概ね6割程度の人は自宅療養を肯定している。一方で、自宅療養以外では「ホテル療養をしたかった」が23.3%と4人に1人はホテル療養に対する要望があった。



療養期間についての考え

- 自分自身の療養期間は「妥当だと思う」が35.4%と3人に1人は容認している。但し一方で症状に合わせて短期化できたらよい」が23.1%、「長いと思う」が16.7%いる。令和4年に入ってから陽性者が多いことと、症状が比較的軽いと言われていることなども起因している可能性もある。



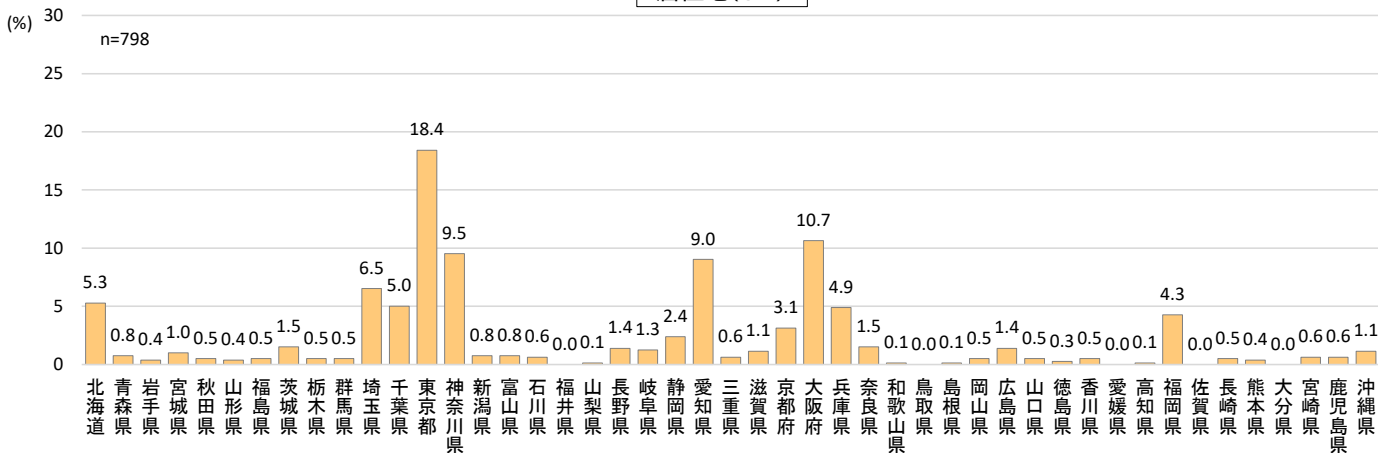
新型コロナウイルス感染症 濃厚接触者の自宅待機者(回答者)属性

居住地

濃厚接触者で自宅療養であると回答した798人の属性は下記のとおり。今回は、WEBサイトのモニターで抽出しているため、あくまでも回答者の回答を尊重し報告いたします。

- 回答者の構成が多いのは、東京都18.4%と最も多く、次いで、大阪府10.7%、神奈川県9.5%、愛知県9.0%、埼玉県6.5%、北海道5.3%となっている。

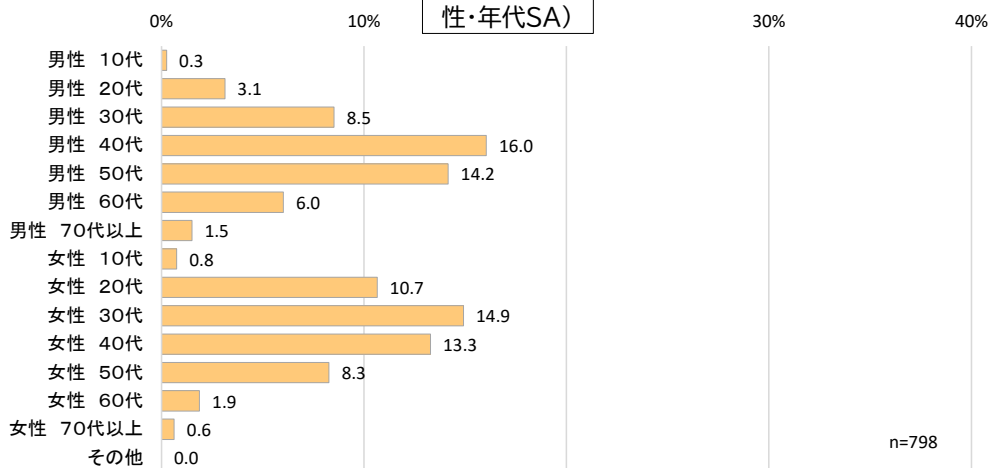
居住地(SA)



性別・年代別

- 男性では40代が16.0%と最も多く、次いで、50代が14.2%。
- 女性では30代が14.9%と最も多く、次いで、40代が13.3%。

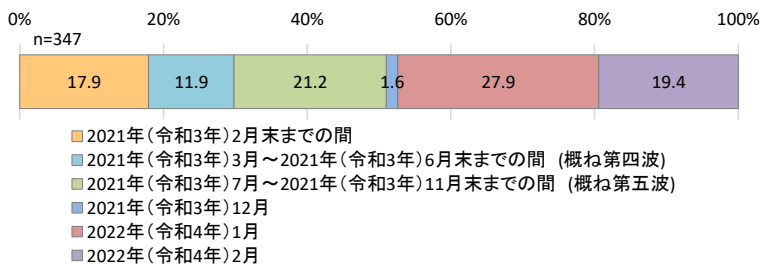
性・年代SA



濃厚接触者となった時期

- 「令和4年1月」が27.9%と最も多く、次いで、「令和3年7月～11月末」が21.2%、「令和4年2月」19.4%となり、今回の回答者は直近の2か月での濃厚接触の特定が47.3%と概ね半数となった。

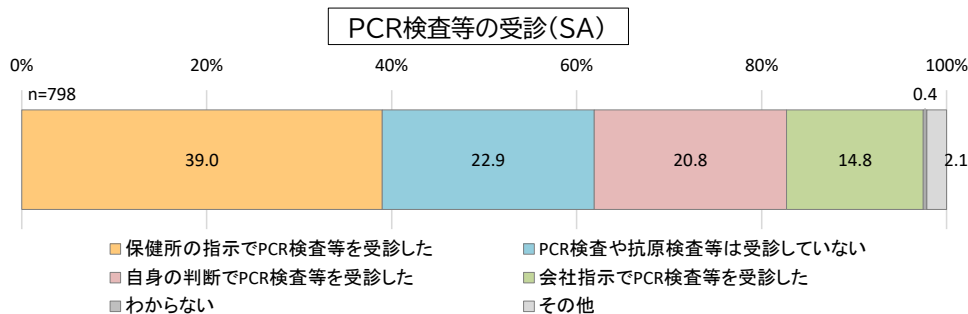
濃厚接触となった時期(SA)



新型コロナウイルス感染症 濃厚接触者の自宅待機者

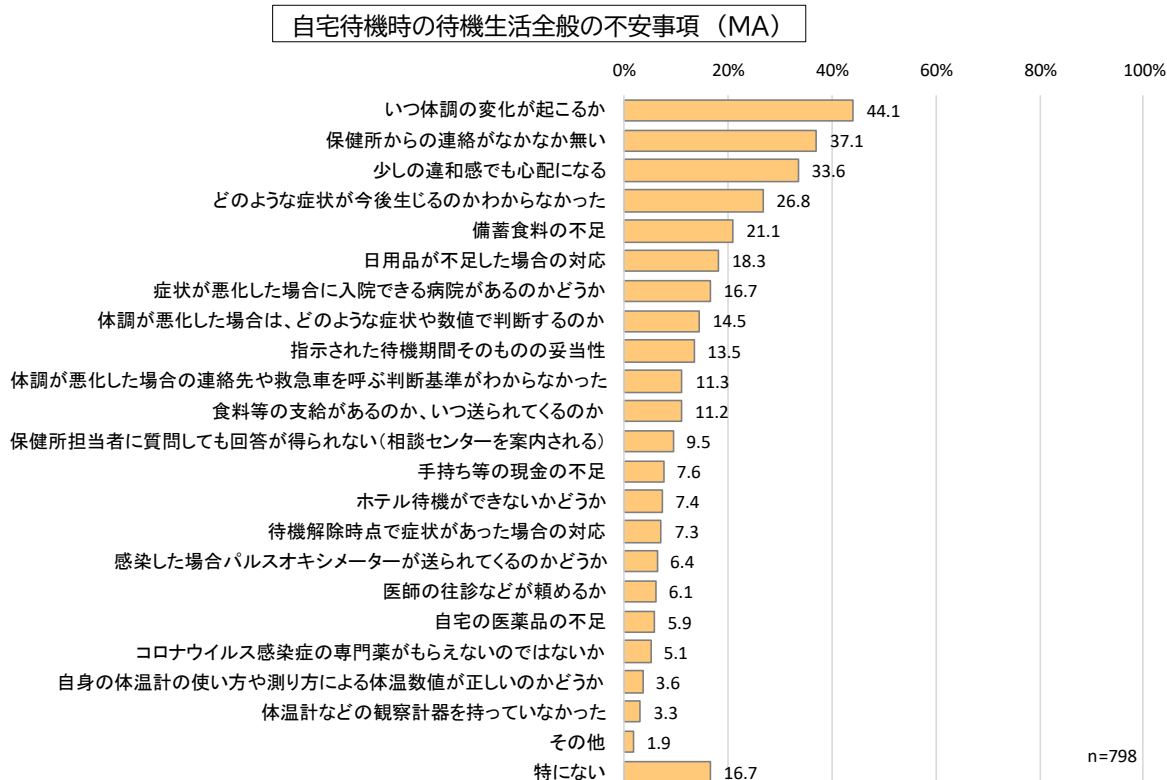
PCR検査の受診について

- 自身が濃厚接触者となりPCR検査の受診については「保健所の指示でPCR検査等を受診した」が39.0%と最も多く、次いで「自身の判断でPCR検査等を受診した」が20.8%となる。一方で、「PCR検査や抗原検査等を受診していない」が22.9%となっている。



自宅待機時の不安について(待機生活全般)

- 不安事項のトップは「いつ体調の変化が起こるか」が44.1%、次いで「保健所からの連絡がなかなか無い」が37.1%、「少しの違和感でも心配になる」が33.6%、「どのような症状が今後生じるのかわからなかった」が26.8%となり、自身の感染への不安が多い。また、症状の回答と同様に「症状が変化した場合に入院できる病院があるのかどうか」が16.7%、「体調が悪化した場合は、どのような症状や数値で判断するのか」が14.5%あり、症状の変化にかかる判断などにも不安を感じている。
- 生活への不安はこれ以外にもまた、最低限の外出の許容はされているものの、「備蓄食料の不足」が21.1%、「日用品が不足した場合の対応」が18.3%となっている。

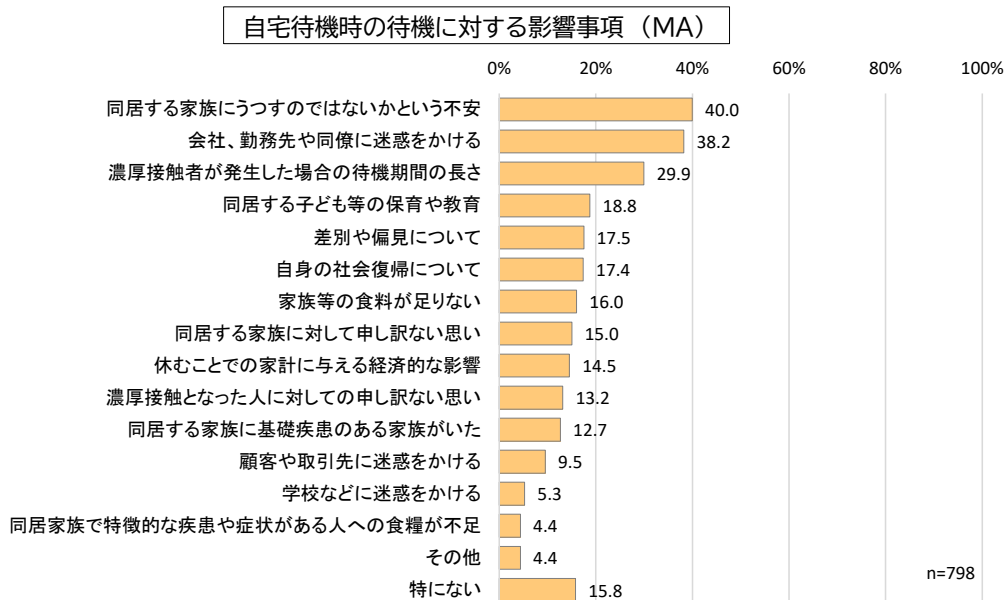




濃厚接触者の自宅待機者

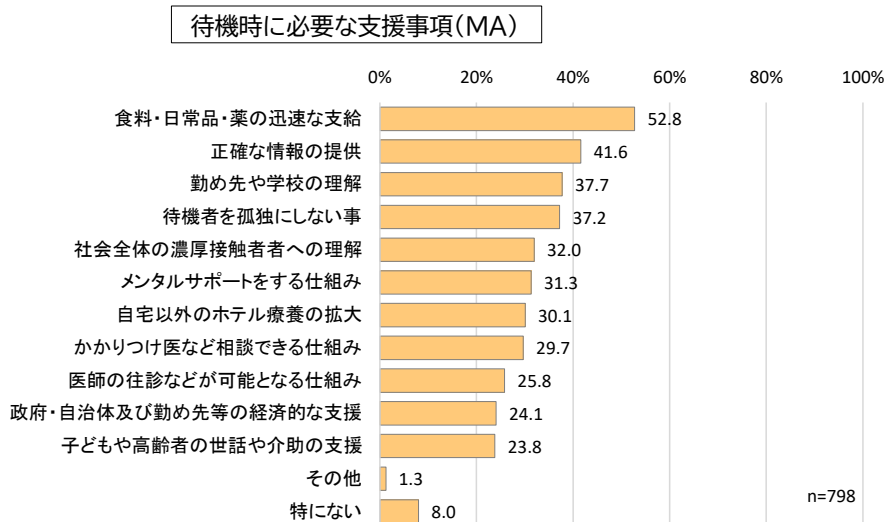
自宅待機時の不安について(待機することに対する影響)

- 待機になったことによる影響については、「同居する家族にうつすのではないかと不安」が40.0%と最も多く、次いで「会社、勤務先や同僚に迷惑をかける」が38.2%となり陽性者の影響と全く同じであった。
濃厚接触者特有なのは「濃厚接触者が発生した場合の待機期間の長さ」が29.9%であり、この長さから「同居する子ども等の保育や教育」が18.8%、「自身の社会復帰について」が17.4%となっている。



自宅待機時の必要な支援事項

- 今後の必要な支援は「食料・日用品・薬の迅速な支給」が52.8%と最も多く、次いで、「正確な情報の提供」が41.6%、「勤め先や学校の理解」が37.7%、「待機者を孤独にしない事」が37.2%となっている。これに類似するニーズとして「メンタルサポートをする仕組み」が31.3%と陽性者と同様な結果となっている。
また、自身のこと以外では、これも陽性者と同様に「社会全体の濃厚接触者への理解」が32.0%、となり、勤め先や学校とともに個々の属する集団などでの理解の促進が望まれている。

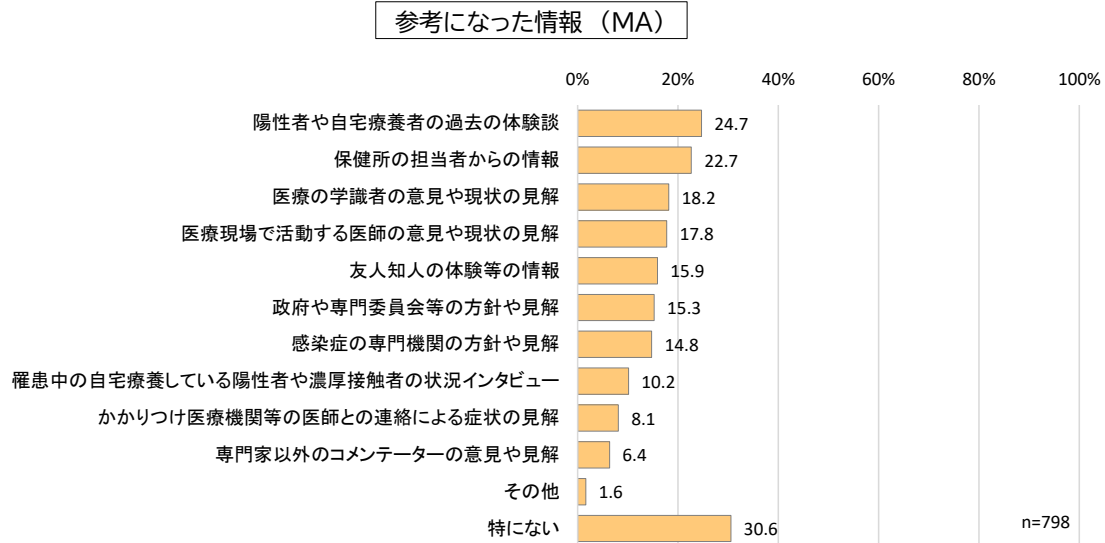




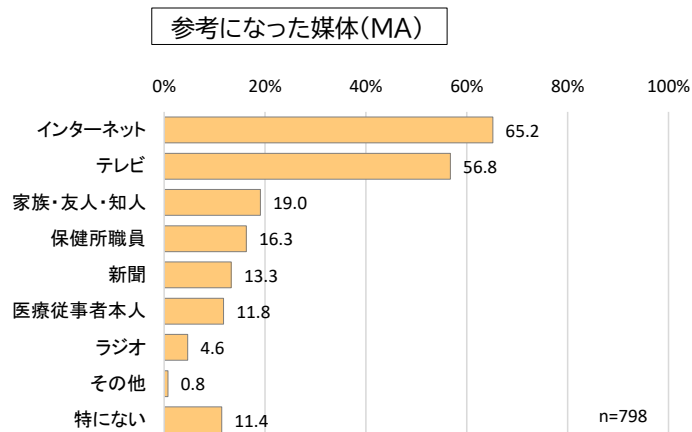
濃厚接触者の自宅待機者

待機期間中参考になった情報と情報の入手媒体

- 自分自身の待機期間中に参考になった情報は陽性者と同様に「特にない」が30.6%と最も多い。具体的な情報としては、「陽性者や自宅療養者の過去の体験談」が24.7%、「保健所の担当者からの情報」22.7%、「医療の学識者の意見や現状の見解」18.2%、「医療現場で活動する医師の意見や現状の見解」が17.8%となり、感染・医療従事者の情報はかなり重視し参考にされている。



- 自分自身の情報の入手媒体は、「インターネット」が65.2%も最も多く、次いで「テレビ」が56.8%、「家族・友人・知人」が19.0%となっている。



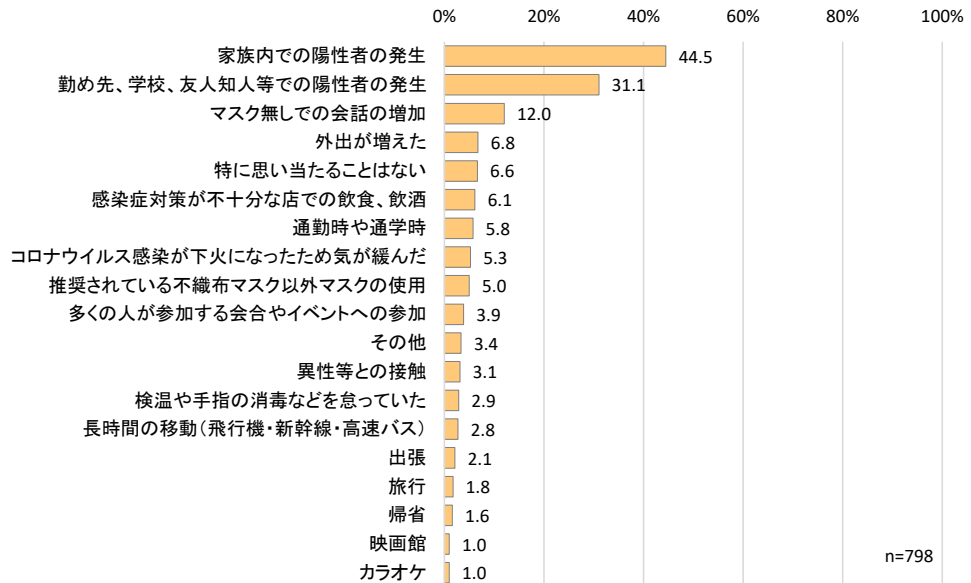


濃厚接触者の自宅待機者

自身が濃厚接触者になった考えられる理由

- 自分自身が濃厚接触者になった理由については「家族内での陽性者の発生」が44.5%と最も多く、次いで「勤め先、学校、友人知人等での陽性者の発生」が31.1%となっている。一方で自身の行動態様としては「マスク無しでの会話の増加」が12.0%、「外出が増えた」が6.8%となり、陽性者と同様な傾向である。

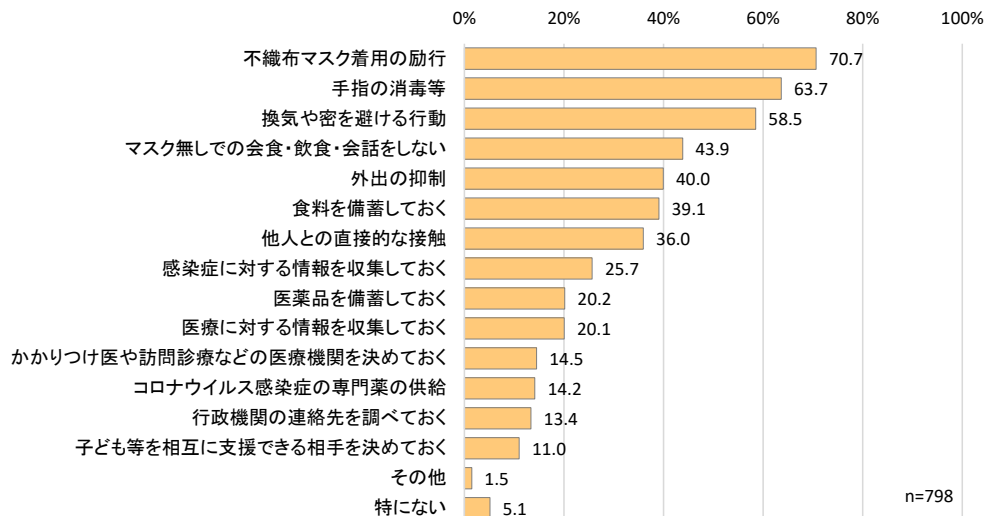
濃厚接触になった理由 (MA)



今後重視する感染対策

- 今後の自分自身の感染防止対策については「不織布マスク着用の励行」が70.7%と最も多く、次いで、「手指の消毒等」が63.7%、「換気や密を避ける行動」58.5%、「マスク無しでの会食・飲食・会話をしない」が43.9%と陽性者と同様に、これまで言われている基本的な行動が上位を占める。また、自宅待機の不安でも備蓄食料等の回答が多かったが、「食料を備蓄しておく」が39.1%となっている。

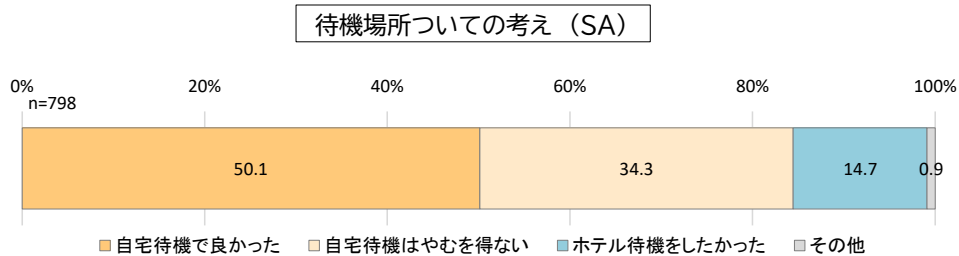
今後重視する感染対策 (MA)



濃厚接触者の自宅待機者

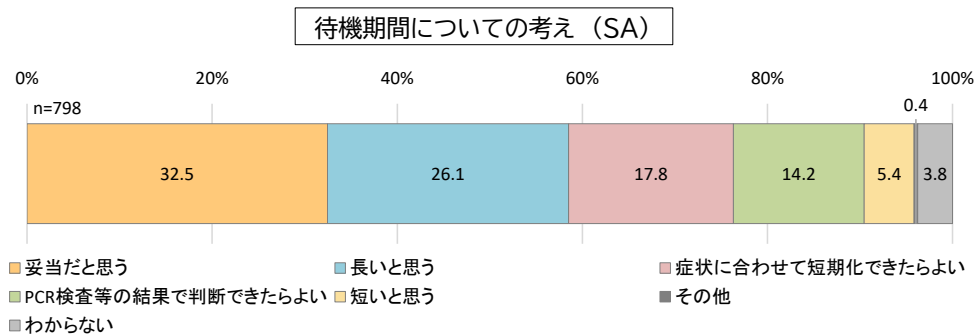
待機場所についての考え

- 自分自身の自宅待機については「自宅待機で良かった」が50.1%、「自宅待機はやむを得ない」が34.3%と概ね8割強の人は自宅待機を肯定している。一方で、自宅待機以外では「ホテル待機をしたかった」が14.7%であった。



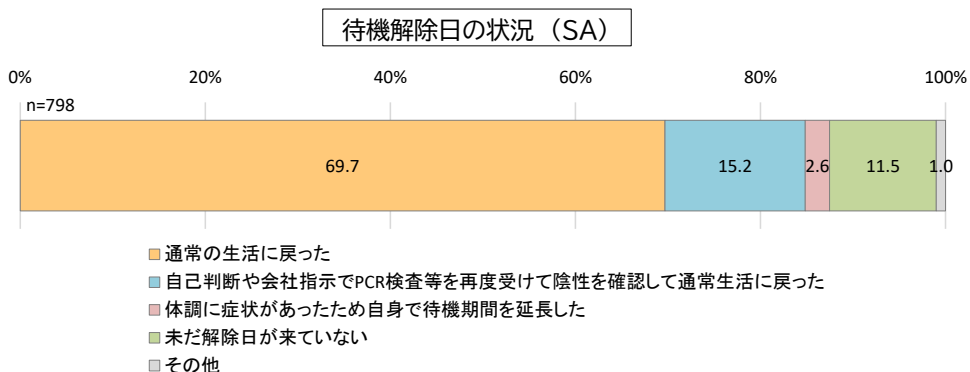
待機期間についての考え

- 自分自身の待機期間は「妥当だと思う」が32.5%と3人に1人は容認している。但し一方で「長いと思う」が26.1%、「症状に合わせて短期化できたらよい」が17.8%、「PCR検査等の結果で判断できたらよい」が14.2%となり、概ね6割弱の人は状態を確認したうえでの短期化を要望している。



待機期間解除日の状況について

- 自分自身の待機期間解除日以降の状況については、「通常の生活に戻った」が69.7%、「自己判断や会社指示でPCR検査等を再度受けて陰性を確認して通常生活に戻った」が15.2%となり、保健所が指示している解除日以降の態様については社会的な影響も考慮してか検査を受診している人もいる。

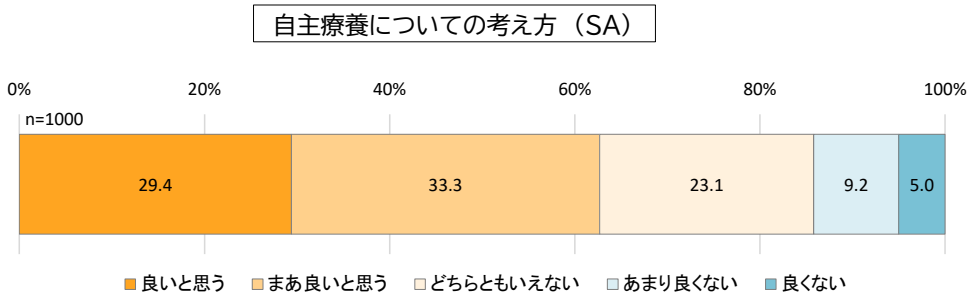


■ 自宅療養者・待機者全員

自主療養についての考え

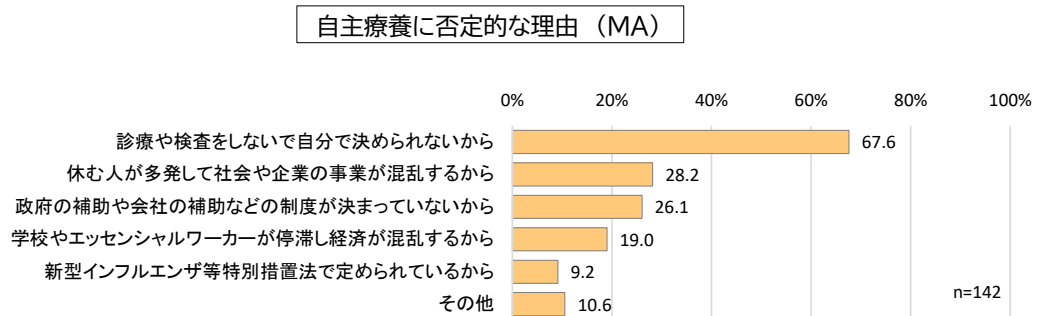
現在、一部の自治体で医療機関を受診せず重症リスクの低い人についてのみ、自主療養することを実施し始めている。このことについて聞いた。

- 自主療養については「まあ良いと思う」が33.3%、「良いと思う」が29.4%と概ね6割の人は肯定的。一方で、「どちらともいえない」が23.1%。また、「あまり良くない」が9.2%、「良くない」が5.0%と否定的な人は概ね1割強であった。



自主療養に否定的な理由

- 自主療養に否定的な理由としては「診療や検査をしないで自分で決められないから」が67.6%と圧倒的に多く、次いで「休む人が多発して社会や企業の事業が混乱するから」が28.2%、「政府の補助や会社の補助などの制度が決まっていないから」が26.1%となっている。



※自主療養について「あまり良くない」「良くない」と回答した人

■参考(第1回～第5回全国調査の概要)

1. 過去の4回の調査は全国都道府県を対象としている。第5回調査は東京都のみを対象としている。

- 調査地域 全国
- 調査方法 インターネット調査(インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査)
- 調査対象 20歳以上男女モニター
- 有効回答 全国47都道府県 各100サンプル割付回収(全4700サンプル回収)

2. 各調査の実施時期

- 第1回 2020年(令和2年)3月6日(金)配信開始～3月9日(月)調査終了
- 第2回 2020年(令和2年)4月3日(金)配信開始～4月6日(月)調査終了
- 第3回 2020年(令和2年)5月29日(金)配信開始～6月2日(火)調査終了
- 第4回 2020年(令和2年)11月27日(金)配信開始～12月2日(水)調査終了
- 第5回 2021年(令和3年)8月13日(金)配信開始～8月16日(月)調査終了

※各調査結果の概要は、株式会社サバイリサーチセンターのホームページに掲載している
<https://www.surece.co.jp/research/>

3. 調査実施体制

- 調査主体 株式会社サバイリサーチセンター
SRC情報総研
- 監修・協力 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター(第1回、第2回)

■ サバイリサーチセンター 会社概要

- 会社名 株式会社サバイリサーチセンター
- 所在地 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
- 設立 1975(昭和50)年2月
- 資本金 6,000万円
- 年商 78億円(2020年度)
- 代表者 代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
- 社員数 社員283名、契約スタッフ455名 合計738名(2021年3月1日現在)
- 事業所 東京(本社)、札幌、盛岡、仙台、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
- 主要事業 世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
- 所属団体 公益財団法人 日本世論調査協会
一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA)
日本災害情報学会
一般社団法人 交通工学会 他
- その他 ISO9001認証取得(2000年6月)
プライバシーマーク付与認定(2000年12月)
ISO20252認証取得(2010年10月)
ISO27001認証取得(2015年11月)※
※認証区分及び認証範囲:
・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供
・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供